

1 審議会名	上田城南地域協議会
2 日時	令和3年2月18日 午前10時00分から正午まで
3 会場	城南公民館 1階 大ホール
4 出席者	相田委員、小野澤委員、小林委員、櫻井委員、竹内委員、龍野委員、田中委員、 原田委員、増澤委員、松田委員、宮坂委員、宮澤委員、柳澤委員、若林委員、 渡邊規夫委員、渡辺里香委員
5 市側出席者	【事務局】村山城南地域振興政策幹、内藤地域内分権推進担当係長、 西澤地域内分権推進担当主査、片山地域内分権推進担当主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和3年2月22日
協 議 事 項 等	
次第	
1 開会	
2 会長よりあいさつ	
3 協議事項	
(1) 上田地域における地域協議会の設置単位の見直しについて	
事務局より資料を基に説明	
以下、質疑応答	
(委員) 地域協議会と住民自治組織など組織が多すぎる。もう少しコンパクトに実行性の上がるものとして見直しができないか。	
(委員) 見直し案に賛成だが、もっと思い切った組織の見直し・簡略化ができないか。	
(会長) 第7期上田城南地域協議会として、上田地域を右岸・左岸の二つに分ける案で意見提出したが、これについてはどうか。	
(委員) 地域協議会という組織がいつまで存続するのも含めて検討し直した方がよいのではないか。組織をまとめて、コンパクトにしながら任務をまとめたらどうか。	
(会長) 第7期の会議開催数は何回か。	
(事務局) 平成30年が5回、令和元年度が6回の開催である。	
(会長) そうするとわがまち魅力アップの審査もあり、2か月に1度という頻度となる。	
(委員) 第7期に、市から6つの協議会を1つに統合する案が出されたとなっているが、市は上田全域を1つの協議会にして、協議会としての役割・目的を果たせると考えて提案されたのか。	
それとも数を減らさないといけない意見があって、提案されたのか。	

(事務局)両方である。合併協定書に記載があるように、地域の実情に合った設置単位に見直しをするということで、委員の負担軽減と、1つにしても運営方法により、各地域の意見を反映することができるとして提案に至った。

(委員)第7期の見直し案に対して「それでは各地域の実情を踏まえた検討ができないのでは」と第7期の委員の皆さんは考えたのではないか。「協議会は必要」と考えるとすると、6つあるよりは数を減らしてその中でそれぞれの地域の意見を反映できると考えるのであれば、今回の右岸・左岸の2つにする案に賛成できる。

(委員)左岸・右岸に分けるのに賛成である。人数は20人となっているが、その半分もいれば十分ではないか。

(委員)人数を減らされた中で、選ばれた委員さんがどれだけ地域の実情を反映できるのか心配である。実際自分を含めた子育て世代は、こういった組織に参加すること自体が難しい中で、どうしても年齢的な偏りが出てきてしまう。人数が減ればまた更に偏りが出てしまう可能性があると思うと、本当に市長が住民の意見を聴取したいのであれば、もう少し違う意見の集め方を考えていかなければならないのではないか。

(事務局)地域の声を反映するにあたって、地域協議会だけでなくパブリックコメントなどにより様々な方からの意見をいただける体制になっている。市からの意見聴取等の際は、その場ですぐその回答を求めるわけではないため、一旦、所属団体などに持ち帰って意見交換をするなどしていただければ、地域の多くの方の意見を反映できると考える。

(委員)資料の「今後の地域協議会のあり方について（住民自治組織の活動が市民に十分に認知された段階で、改めて住民自治組織の位置付けと住民自治組織のあり方について検討する）」に沿って、進めていけばよいと考える。

(事務局)地域によっては「地域協議会の代わりに住民自治組織を位置付けてはどうか」といった意見もある。住民自治組織の設置が市内全域にできていないということもあるので、設置された後に改めて住民自治組織の位置付けと地域協議会のあり方について検討を行いたいということで、資料に記載した。

(会長)もともと地域協議会は条例に基づき設置されている。住民自治組織の任務と、地域協議会の任務が一見重複しているようでいて重複していないから紛らわしい。地域協議会は市の諮問機関であって、市政に対して意見の申し立てができる権利を持っている。そういった意味で力のある協議会である。

住民自治組織では問題解決のための調査研究を行っているが、少しニュアンスが違う。地域協議会では諮問に対する答申や意見提出を着実にやっていないといけない。6つの地域協議会をまとめた時に、仮に城南地域に対するテーマがあった時には城南地域から選出された6～7名の方が判断できるかどうか。今だったら20名いるから安心感もあり、結論も出せる。

例えば現城南地域協議会は残したまま、市からの諮問事項が出てきた時に各地域協議会で審議する事項かどうか判断できればよいのではないか。

(委員)7期でも同様に様々な意見が出た。住民自治組織は課題を見つけてそれを解決していく実動組織で、地域協議会は市に対して提言ができる貴重な組織である。現在、住民自治組織は成長しつつある組織である。今後の住民自治組織の位置付けと地域協議会のあり方を見据えた上で、今回提案のあった右岸・左岸の2つに単位を見直すのはどうか。

(委員)右岸・左岸の2つであれば委員人数の面からも意見を反映しやすいということで第7期において城南地域協議会として市へ意見提出した。

将来的に住民自治組織と地域協議会のあり方を考える必要があるが、当面は現状でやるしかない。

(会長)右岸・左岸の2つに分ける形でよいか。

----よい(全員一致)

(事務局)今後、他の地域の意見を踏まえ、改めて提案させていただく。

## (2)城南地域の課題について

### 【各部会協議】

#### ○防災部会

資料に基づき課題と対策案について意見交換

以下、委員からの主な意見

- ・避難所の課題として情報収集のための電源確保、物資の保管が大きな課題である。学校施設では教員が適切に対応された例が見られた。
  - ・夜間、荒天時の避難が予想されるため、施設の周辺状況など、あらかじめ確認しておくことが必要だと感じた。
  - ・情報収集、伝達が重要である。指定避難所は勿論、市の施設にはWiFi環境の整備を望む。
  - ・避難訓練などは、年に一回程度実施してもなかなか本番では実践が難しい。
- 絶えず練習することが必要だが、訓練を主催する各自治会でも役員のほとんどが一年で交代しているため、教訓の伝達などもままならない。
- ・地域で配信システムを導入している例をモデルにして検討してはどうか。

#### ○高齢者福祉部会

資料に基づき課題と対策案について意見交換

以下、委員からの主な意見

- ・介護保険料が高いのは利用者が多いためなので、保険料がどんどんと上がらないためにも介護予防に心がける必要がある。
- ・地域リハなどの回数を増やしたり、周知を工夫して参加者を増やしていければよいのではないかと。
- ・地域リハやサロンなどたくさんあるが、利用者が固定されていたり、ひと月に1回では足りないとの話もある。自分の住んでいる以外の地域リハに参加していいものか。
- ・居場所としての地域リハ等があってもいい。
- ・B型デイサービスを推進するのが解決につながるのではないかと。

○産業振興部会

資料を配布

資料「平成 26 年商業統計調査結果報告書」（地域別データ掲載ページを抜粋）を配布

以下、委員からの意見

市は、地域ごとの統計データを作成していないようだが、地域の現状を把握するための統計情報があれば便利なので、市はデータを作成し、住民へ公開するとよい。

(3) その他

(事務局)上田城南地域協議会だよりの校正が進んでおり、内容について確認いただきたい。

地域の方々には 3 月 16 日付の定期送達にて回覧する予定。

4 その他

次回の開催予定

日時 3 月 18 日(木) 午前 10 時から

場所 城南公民館 大ホール

(内容)わがまち魅力アップ応援事業の審査

5 閉会